

「  
私が「人生最大の発見」というスレを見つけたのは4年前、2005年のことです。  
非常に興味を引くスレッドタイトルでした。  
多くの人が考えることだと思いますが、私も物心ついた時から、  
人生の意味ってなんだろう？といったことを漠然と考えてきました。  
年齢を重ねるに連れ、考え方も変わっていき、その時、その時で自分の中で重視するものも変わってきました。  
とにかく成功だ！金銭的に成功しないと！と考えていた時期もありましたし、  
いや人望だ！多くの人から慕われたい！とか、所詮、人生なんて死ぬまでの暇つぶし、適当に生きていこう！  
などなど、いろいろな成功法則本、自己啓発書、宗教本、スピリチュアルな本まで影響を受けながら、  
かといってどう生きていったら良いかも定まることなく、  
そういった内容の本やブログや掲示板などをつまみ食いしながらやってきたという感じです。  
私と似たような方が多くいると思うのですが、そのような人達にとって「人生最大の発見」なんて、たまらない題名です。  
けれど、今までの経験上、期待半分、どうせ今までの啓発本の類と同じなんだろうという気持ち半分で読み始めました。

結論から言えば、生きていく上で非常に武器になる、  
劇的に人生を向上させる指針となるものを著者は提示してくれていたのですが、そんなに簡単に皆が理解できるものではなかったのです。  
今まで皆が考えもしなかった概念を提唱した時、  
最初は「いったい何を言ってるんだ？」といった疑問の声が大多数になるのはいつの時代でもそうでしょう。  
私の場合は著者から「原則」というものがあり、それを基準にした思考法があると聞かされた時、  
なんとなくそういうものがあるのではないかという考えを持っていたので、そんなに驚くこともなかったけれど、  
その性質上、簡単に自分のものにできるような代物ではないので、  
興味はあるが、はっきりとはわからないし、本当にあるのかも疑わしく、そのままにしていたのです。

今年、2009年に入り、著者が今までのスレッドをまとめ、  
皆にわかりやすくした本を出版すると発表し、原稿を試しに読んでみたい人には渡していただけるとのことで、  
私は是非、今まではっきりわからなかった「原則」を自分のものにしたいと応募しました。  
原稿を読んでみて、今まで漠然と「原則はあるのかなあ」くらいに思っていたものが、  
「確かにあるんだな」と変わったことは大きな変化でした。  
自分ではまだ掴めていませんが、「原則」がどのようなものであるのかわかりました。  
例えば、私が縄文人(「原則」を利用していない人)だとして、今まで、動物を狩ったり、木の実を拾って食べるだけだったのが、  
稲作して安定して食べ物をつくりだすこと(「原則」を利用すること)ができるんだってのを知ったことは衝撃的なことだと思います。  
ただ、私の場合はなんとなく食べ物を拾うだけでなく、育てるといった方法があるらしいぞって聞いたことがあったので、  
著者から「確かに稲作って方法があるんだ」と聞いた時、「やっぱり！あったんだな！」という感じで、  
全く食べ物を育てる概念がなかった人や、聞いたこともなかった人よりは衝撃度は少なかったし、  
著者の言うことに「そんなもんあるわけー」と反論することもなかったという感じでした。  
ただ、今の私は稲作の概念は理解して、確かにあることもわかった。  
でもやり方がよくわからないので、これからいろいろ学習していった稲作の技術を高めていかなければ、という所なのでしょう。  
この時、やはり重要なのは「稲作は確かにできる」というのを、  
わかっているのとわかっていないのとでは大きな違いがあると思いました。  
稲作って方法が確かにあると確信していれば、成功するまで努力するでしょう。  
「あるのかな？」くらいではうまくいかないと思うので途中でやめてしまうかもしれません。  
稲作を成功させるのも相当な試行錯誤が必要だったでしょう。

私は「原則」を自分のものにするべく、動いていこうと思ってます。  
順番的には私のようなパターンがほとんどではないでしょうか。  
著者のようにいきなり発見できてしまう人は少ないんでしょう。  
これまでの心境の変化としては、初めに宝箱への道筋が書いてある地図(「原則」)を渡された時の  
「この地図あってるんだろうか？この宝本当にあるんだろうか？」という感じから、  
「うわ！この地図本物だ！」に変わったことは、私の中では非常に大きなものでした。  
今まで、地図もなければ現在地もわからない、手探りの状態で生きてきたのが、  
なんとなく地図を手に入れ、その地図が正しいものだとわかり、後はそれに沿って進めば良い。  
進まなくても良いが進めば宝箱が待ってる。こんな心境でしょうか。  
大袈裟かもしれませんが、そして宗教的な意味と勘違いしてほしくないのですが、  
自分の生きる意味がわからない、何のために生きていったら良いのかわからない、

どのように生きていったら良いのかわからない、  
こういう人々にとって、「原則」は生きていく目的、指針となるものではないでしょうか。  
少なくとも私はこの「原則」を知ることにより、  
自分の進む道、生きる意味がはっきりしてきたと感じています。  
優劣をつけるものでもないですが、原稿を読もうと動いた私も、そしてこの本を手にとったあなたも、  
自分から動いたという点で資質のあるものと信じています。  
そして、自分から積極的に求める者は、間違いなく「原則」に近づいていけるものと確信しています。

最初、万物の根源である「原則」があると原則スレで読み、そんなに驚きはしなかった。  
船井幸雄さんの本も何冊も過去に読んでおり、この世はそういう根源、サムシンググレート、神、  
なんと呼ぼうがそういうものに支配されてるとの感覚はあったから。漠然としたものだが。  
そして1さんや part1 の 509 さんが「原則」はあると言ってるのは嘘ではない。  
確かにあるのだろう。「原則」を使った思考をしてる人はいる、って聞いてもびっくりはしない。  
でも私は「原則」が見えてない。見たい。理解したい。原則的な思考法を手に入れたい。  
おそらく原則的であるということは以下のような感じだろう。

自然とあるべき姿になる。  
全てが良くなる方向に（例えば自分だけが、じゃなく）、  
自分の視点（人間の視点）じゃなく地球、宇宙、全体からの視点での思考。

---

## 20 代男性

・人の新たな在り方への期待を込めて

初めに言明すると、僕はこの「原則」を広めるということを運動として見た場合、  
ある種、ルネサンス運動のようなものではないかと捉えている。  
それは、「タオ（道）」という、今では埃を被ってしまっていて、一部の専門的な人々にしか理解されていないものを、  
現代人の生活スタイルにあったものとしてリバイバルさせることに成功している点。  
そして文化、思想などあらゆる場面にその影響が波及していくであろう点なども、ルネサンス運動に通じるものを感じているところだ。  
もっとも、ルネサンスとの最大の違いは、おそらくそれが「思考革命」である点だろう。  
僕は2ちゃんねるの原則スレに書き込みをしていたし、著者である1さんとメールでのやりとりもしていた。  
そういう意味では、この運動の内部にいた人間と言えるかもしれないが、  
1さんから、書籍に載せる感想を依頼された時には、正直少々困惑した。  
一介の、一般人、平凡な若者の感想が、今後世に大きな影響を与えるかもしれない書物に載ることの、躊躇なのかもしれない。  
考え悩んだが、自分の感想が、読者の人々の理解の助けに少しでも繋がるのならと、結局この文章を書くこととなった。

さて、僕が、なぜ「原則」という思想に吸い寄せられるように出会ったのかを述べたい。  
僕は、高校時代の後半から浪人時代、そして大学生であった期間は、疑問につぐ疑問の連続のような日々を過ごしていた。  
僕の疑問と興味の対象には、哲学的な内容のものがあつたし、  
社会的、倫理的な事柄や、生き方の「効率」つまり、自己啓発的なものへの興味もあつた。  
しかし、一貫して感じていたことは、それぞれの疑問を専門的に研究している分野や団体が、  
その目的や利害がばらばらに分断されてしまっている、というものだった。  
そして、一つの疑問を解決すべく、なんらかの物事に取り組んでも、その世界から一步でてみると、  
その方法や思想が、別の物事に全く応用できない、という矛盾も感じていた。  
僕から見ると社会は、人々は本来こうあるべきだという理想のように動いていなかった。  
そこには多くの矛盾があり、正論が通らないように見え、僕の社会活動へのモチベーションは下がっていた。  
また、世の中に矛盾を感じた人間が逃避先にできる「宗教」の道も僕には断たれていた。  
もともと日本という無神論的な土壌で育ったこともあるが、  
人一倍疑い深く、自分で納得することでしか答えを得られない性格であったため、宗教に逃避することもできない。  
肉体的な快楽に溺れようとするには、自分の性格や特性に合ったいわゆる「ツルむ」人間がいなかった。

知的探求に身を置くということにも、大学や研究機関の体質や受験制度などに、効率の悪さを感じていたため積極的になれなかった。全てのことに矛盾を感じた僕は、いっそ、浮浪者にでもなってしまうかと本気で考えた時期もあったほどだ。世捨て人に憧れ、「タオ」や「悟り」などの分野に関心を持った時期もあった。だが、驚いたことに、原則スレとの出会いが、それら全てを解決したのだ。結局、自分の求めていたものは、対極にある物事同士を「繋ぐ」思想であることがわかった。「メタ的」な立場からの、しかも人生経験豊富で頭の柔らかい人間の思想を必要としていたのだった。そういう立場から考えを展開されていた1さんに共感すると同時に、2ちゃんねるの哲学板の猛者たちと議論し、「原則」の理解も深まり、人間的な成長もあった。もっとも、「原則」の性質上、僕は未だその探求の途上にいる。そして満を持して、「原則」について述べた本を出版する、という話が持ち上がり、原稿モニターの一人として、今読者の人が手にしているこの本に、一足先に目を通したのだった。

この書物は斬新な視点からの考察が多く見られるが、その最も特異な点の一つは、ゲームや遊びに関する論述だろう。僕は、学問や日常生活、そして思想的なものも、遊びとして捉えるべきでもあると常々思っていたのだ。これは小さな作業にも言えることで、ゴミ箱に空き缶を入れること一つとっても、穴に何かを放りこむ、という、スポーツなどにも見られる空間的な遊びの要素はある。人生を遊びとして捉えれば、他者が定めた基準や倫理観に従って生きねばならないという脅迫観念や、何のために生きているのかわからない、というニヒリズムを、跳ね返すことができるのではないか。そんな気持ちと、この本のポップさはシンクロした。どうしてゲームと宇宙の真理を同列に語ってはいけないのか。そんなことはないはずだ。この本の出版は、これから始まる人類の新たな時代の幕開けの、序章にすぎないと思っている。この運動に加担している一人として、これからもその動向を追っていきたい。

陽平 2009年5月 記す

---

## 30代女性

私が原則スレを見つけたのは2006年2月だったと思います。原則スレを見つけるまでは、2chという存在すら知りませんでした。何故、原則スレを知ったかという、それまでの私の人生にとって最大とも思えるある大きな出来事があり、私自身に何が起きたのか、私が気づいてしまったことは一体何なのか？他に同じような体験をした人はいないかと探すために検索していたところ、原則スレがヒットし、原則スレの過去ログを読むこととなりました。

まず、私自身に何が起きたのかというと、2006年2月、時間があって経済の仕組みについてぼんやり思考を進めていきました。思考はどんどん進み、輪郭も見えてきました。輪郭・仕組みが見えた瞬間、次に人間の思い込み（固定観念や概念）の仕組みに気づき、あとはランダムにあらゆる方向・・・に一気に思考が広がり自分の意思では止められない位の勢いで、ランダムな内容の断片を残しつつ、ある一点までつき進み止りました。時間にして2時間位の出来事だったかと思います。その時の私に何が起きたのか簡単に説明すると、自分自身のそれまでの固定観念や概念の殻が破れ、固定観念や概念の外の位置に出たということです。故意に固定観念や概念等の殻を破ろうとしたのではなく、ひょんなことから考え事をしていて、つきつめていった時に自然に破れてしまったのです。あまりの衝撃に、正直自分はおかしくなった、正気じゃなくなったとその時は思いました。とても動揺していた私は、あらゆる検索をかけていたところにたまたま原則スレがヒットし、ちょっとのぞいてみたところ、これだ！ここに答えがある！と直感し、数日かけて必死に読みました。・・・が、「原則」については理解不能でした。

私の中に「原則」を理解するための要素もなかった状態だったのです。それから1年あまり自己啓発、理系、哲学、歴史、精神世界、宗教の歴史など、ありとあらゆる分野に首をつっこみました。そして、面白いことに最終的に残ったのが、またしても原則スレだったのです。またしても原則スレと対面しましたが、その時は、以前読んでみて理解できなかったので、

「もういいや。自分なりにやっつけていこう」と腹をくくり、自分なりに1年くらい進めて行く中で、原則スレや「原則」のことは忘れていて、自分の中で自然に「これだな。」という感覚的なものがありそれに沿って過ごしてきました。この頃には、私の頭の中もだいぶ整理されていました。

そうこうして過ごしていたところ、2008年の冬に1さんから本を出版するというメールが入り、原稿を読んでみたところ、自分の中で「これだな。」と思っているものと、「原則」によるものと同じであることが確認できたのです。その時、改めて原則スレの「格言」部分等を読ませていただいたのですが、以前は理解不能だった内容も、読んでみるとすんなり納得。なにをどう言葉で表しているのかが当たり前のようにわかる自分がいました。「原則」から発生する発想の共通点に正直、驚きで鳥肌が立ちました。振り返ってみると、私はラッキーが重なっていました。突如、固定観念や概念の殻が破れた時、運よく検索で原則スレがヒットしたこと。そこに1さんのメールアドレスが載っていたので、すぐメールしてやり取りを何度かさせてもらったこと。これらのことが重なって私は無意識でしたが、うまく「原則」の軌道へと乗るよう導かれていったのかもかもしれません。

「原則」を知ることで私自身の世界観や考え方は以前の私とは違っています。勿論、よい方向に変化しています。私の学生時代は勉強そっこのけでスポーツにあけていた、いわゆる体育会系で、社会に出てからも普通のOLでした。深い思考もしたことがなく（ですが、本人は考えているつもり）、感情や情報のレールに乗って生活している人間でした。そして、よく悩んだり過去を嘆いたり未来を心配したりという人間でした。が、「原則」を知ってからは、考えも整理されている＆整理されやすいため、効率もよくなり（どうすればいいのかわかりやすくなっている）、余分な負荷がかからず頭の中がスッキリしている状態になっています。新しい回路ができたようなそんな感じです。なにより、物事に対する見方が違っていて指標があるので、それと照らし合わせて見ている感じです。心理的にも、得たものは大きく、悩むとか心が乱れるとかそういったことはなくなり、常に安心感があります。日々生きていく上での『質』が劇的によくなった感もあります。また、「原則」を効率の観点から見て、ある実験をし、成功しています（自分で勝手に「原則思考」と名付けました）。ある実験とは、某国家試験なのですが、通常はスクールに入り1年位学習し、受験するというパターンが多く、それでも合格率はそんなに高くない状況らしいのですが、私の場合、その分野の知識は全くなく、しかも受験日の2ヵ月半前に参考書を購入。問題集を解き始めたのは受験日の3週間前で、1日の平均勉強時間は1時間半。お店の開店準備と並行してやっていました（ここ1年あまり小さなお店を経営しています）。結果は50点満点中47点で合格。免許をもらうための講習会でも、異例の勉強法と合格したことに参加していた合格者達と先生方に大変驚かれました。ということで、「原則」を効率の観点から見て「原則思考」を利用すると、素晴らしく頭がよいわけでもない私でも、時間内でどう勉強し目標を達成することができるのかということが、自然と頭の中で組み立てられるようになるのです。組み立てたらあとは、実際に行動していけばいいのです。試験勉強だけでなく、色々なことに応用できるかと思います。

最後になりますが、原則スレや、1さんとの出会いがあったお陰で現在の私があるという感謝の思いと、1さん以外にも原則スレに書き込みをしていた方々の文を見て助けになったということもあり、感謝と恩返しの意味も含めて、経緯を書くことを引きうけました。私自身は、「原則」を知ってそれを活かしていくことは、「原則」から生まれた人間なので、多くの方が可能だと思っています。そして、それはプラスになることはあってもマイナスになることはないと断言します。私は、「原則」を知ったばかりですので、まだまだこれからが楽しみです！1さんは、多くの方々が「原則」を知ることで、より幸せで充実した人生が送れるように、世界が協力しあってよりよい地球になるようにという「原則」に沿ったスタンスを取り続けています。この本が世にでることで人類は新たなステージへ移行していくことでしょう。世代を超えて、手元に置いておいても良い書だと思います。1さんはじめ、全ての方々の幸せと発展を祈ります。

宇宙と一体で、過去も現在も未来もずっと宇宙の愛（一点の曇りもない矛盾がない愛）で包まれていたんだと知り感動し涙が出ました。当たり前のことが全て有難い。感謝とありがとうが素直に出てきました。意識だけが存在し、体は物体は借物だったというような感覚です。

20 代男性

原則による思考法では、先にある目指すべき点が見えるようになる。

そのため、現在位置から最短距離である直線が分かる。

場合によれば、さらに先の点が複数見えるが、点を結んだ直線は自分で歩かなければならないので、目的地にたどり着くには時間がかかる。

それでも結果としては最小の労力で最大の結果を得られる。

”原則”はメタ視点の更に上にあるもの。この場合のメタ視点とは、

「加速度運動をメタ視点から考察して  $ma=F$  を導き出す」

「アリの観察からの発見をメタ視点から考察して、人間にも適用できるとした」といった、

具体的な事柄から法則を見いだすための視点という意味。 ”原則”はメタ視点から、

さらに上を見上げたところにある・・・図1

”原則”を発見するには、原則があるという前提の元で、物事を考察し、その体験を重ねる事が必要。

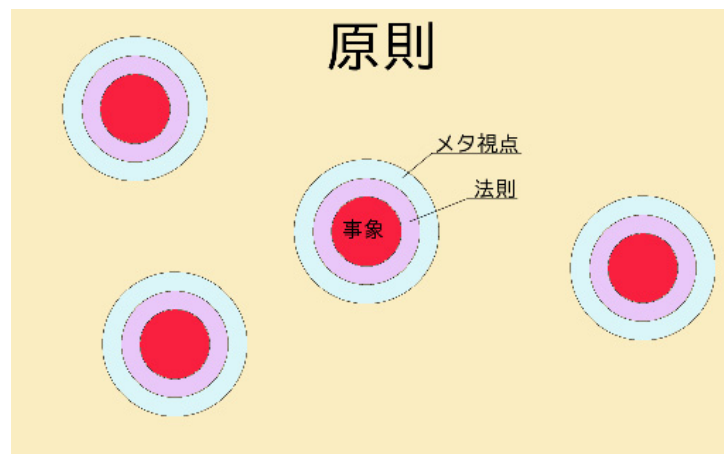


図1

『「原則」を身につける』の節を読んで、ゲームの話ですが、不思議なダンジョンシリーズは好きです。トルネコ(SFC)とシレンのSFC版とGB版1を遊びました。特にシレンGB版はやりこんでます。クリアを目指す戦略が一つに絞られていくというのはよく分かります。あれが原則によるものだったとは、。

たぶんまだ原則があるという前提を身につけてないかもしれません。

振り返ってみると、ボトムアップで思考を重ね原則という頂点に向かってるんです。

原則そのものは理解できなくても原則からのトップダウン方式で考察し、

灯台もと暗して原則に気づくというのが理想的ではないか？そんなことを考えました。

それでもボトムアップ方式の中で今までに思いつかなかったことが浮かんで面白いです。

これは”原則”という確たる方向性のおかげですね。4.6節を読んで、新しい物事の習得法みたいなことが浮かびました。

まずイメージの中で物理的・時間的に広い空間を用意し、現時点での知識と目標を配置する。

そして隙間をうめるように、知識と技術を習得していく。

「視野を広くする」と一言でいえることですが、実感をもって理解できたんです。

昨日、「孫正義大いに語る！！」を読みました。孫正義、すごすぎる。

10年前の本だからこそ、孫さんの大局観の確かさが際だってました。

高速ブロードバンド普及で動画配信が主流になることやテレビメディアの凋落、など。

以前なら歴史と海外に習ってるんだなあ、とだけ思う所ですが、今は孫さんが原則理解者に見えてならない。

自分に分らないことは、すぐに専門家(それもトップクラスの)に協力を求めるなど、

一人で全てをしようとする姿勢も原則的に見えませんでした。何より孫さんの視野は物理的にも時間的にも広い。

特に孫さんの「自己進化経営モデル」は1さんの原稿に書かれてる組織論そのものようでした。  
こんな風になら先が見通せるようになるなら、原則を利用できるようになりたい！！という、モチベーションが上がりました。

ノウハウが統合されて原則に至るとするのは、非常に納得がいきます。  
きっと原則が理解できる時は、ひらめきの瞬間が訪れた時なんだと思います。  
完成させて初めて全体図がわかるジグソーパズルのようなものでしょうか。

今回の追加原稿で触れられた閉じた系での考察により、原則の存在に対する確信が深まりました。  
感覚的なものですがこれは在りそう、理にかなっていると思いました。

「

原則に関するスレッドとこの本から得られたことが2つある。  
“言葉で説明できないもの”と“自由意志”だ。どちらもが私に考え方の変化をもたらしてくれた。  
これまで私は多くの発想術の本を読んできた。  
マインドマップなどの発想術を実践しながらもさらに本を読み続け、発想術を求め続けていた。  
その理由を原則のスレッドを読むことで自覚できた。私は無意識に万能の方法論を求めていたのだった。  
もし万能の方法論があるならば、それは言葉では説明できないものだという可能性を原則スレッドから知ることが出来た。  
これは大きい。言葉で説明できないものであるならばそれは人から伝えられるものではないということ。  
人から得られるのは常にヒントでしかなく、理解したいならば自分自身でたどり着かなければならないということになる。

さらに過去スレッドのやりとりを読み続けてる内に、  
原則というものがあるのではと興味をもった私は1さんへメールを送り本の原稿を見せて欲しいとお願いした。  
この本を読み始める少し前から、私は物事を抽象的に捉えるという方法を修得しようとしていた。  
この本を読むと原則とはその抽象化思考を突き詰めた先にあるものではないかと思いつき、真剣に取り組むことができた。  
読みながらメモをとっていくことなどそれまでなかったことだ。私にとってすごく良いタイミングで原則に会えた。  
1さんとメールのやり取りをする中で原則を理解するには自由意志をもつことが必要だと指摘があった。  
自由意志とは何か、自分なりに考え、実感できた答えは、  
「広く常識と呼ばれているものも含めた善悪正誤の判断基準、  
感情の快・不快を決める状況判断基準などあらゆる価値判断の基準は後天的なもの。  
だからその判断基準はいつでも自由に選択、破棄できる。その選択によって行動もまた自由になる」というものだ。  
この答えは自分の視野を大きく広げてくれた。

私はまだ原則を捉えていない。  
しかしこの本から原則を前提にして、発想力・想像力・経営力を意識的に伸ばしていけば原則に近づけるというヒントを得ることができた。  
今は原則というような万能の方法論があると仮定し、思考・行動する。その中でいずれ原則が理解できればいいと思っている。  
最初に挙げた“言葉で説明できないもの”と“自由意志”、これらが私にとっての最大の収穫だ。  
このことに気づく機会を与えてくれた1さんに感謝しています。ありがとう。

written by dingan

」

---

・匿名さん

私は、1さんの原稿や掲示板などをよませて頂いて原則というのをなんとなくイメージするようにはなりました。  
しかし、あらゆる決断や事柄に関して原則が何を求めている（原則の導き）などはまだ理解できていません。

そもそも2週間で簡単に習得できる訳もないと思っています。

原則とは物事の究極の理想系という風に解釈しています。

やり方は数え切れないほどあるがその理想系に反する事を行うのならば理想系で得られる成果を超えることは絶対に出来ない。  
という感じでしょうか？

原則のイメージとしては極端に変なイメージをもっております。  
宇宙規模の巨人（原則さん）が生物（自然や人間）を作り檻の中（地球や宇宙）で管理している感じがします。  
それらの物を作ったのは、巨人（原則さん）なので原則さんの考え、  
望みを知ることで檻の中、生物の仕組みが分かり檻の中で有利に生活できると共に巨人の前では人間は無力である。  
というイメージを持っております

---

・ mind さん（20代前半 男性）

今回の原稿を読んで感じたことは、まず自分の将来の方向性のめどが立ってきた。ということです。  
今までは一寸先は闇状態でしたが、1年後は会社でうまくできている自分や、友人たちと楽しく遊んでいることが、  
想像できるようになりました。まだまだ油断は禁物ですが。

僕の前稿を読んで感じたことは、  
例えば人に初めて会うとき、視覚からの情報や、声などからその人をとらえます。  
でもそれぞれを切り取ってその一部だけ見てもその人ではそのものではない。  
しかしその人と親しくなっていくと、性格や、しぐさなどその人の特徴が多くわかってくる。

するとすべて、その人の全体像（核）が見えてくる。  
これは言葉では表すことは、難しく、その側面を一部を、多く伝えることでしか、  
他人には伝えられない。  
何よりも、核さえ分かれば、こういう信念で動いていて、こういうときは、  
こういう風に行動するというのが見えてくる。  
時にはその人よりもその人を理解できるようになるのではないのでしょうか？  
だから人を扱うことも楽になってくる。

このような感覚は実はすべてのことに当てはまる。  
この感覚の抽象度をどんどん上げて、これが習慣として身につけて初めて、原則を理解した状態に  
なるのではないのかなと感じています。

現在のところ自分では最善と考えられる行動をとっているつもりです。

今までと変わった所といえば、考えるように努めるようになったところでしょうか。

よく人の意見に、流されていましたが、これは、単純いえば、考えるのがめんどくさかった。  
そのほうが楽だから、という理由が強かった気がします。

いま思いつきましたが、  
宗教はこの様な考え方の人達にとっては楽園のように見えるのでしょうかね。

そもそも、上記の「楽」というのは、固い気がします。  
その場にとどまるイメージがある。

これも原則に反しているように見えます。（断定はまだできません(汗)）  
この風に物事のイメージ(核)をとらえるのが、最近習慣になってきたように感じます。

形は纏っていませんが自発的にこんな長い文章を書くことはほとんどなかったので、  
進歩しているのだなぁと感じます。

---

・S.Kさん 30代男性

<スレとの出会い>

2003年、僕は、会社を辞めてしまっずいぶん経つも、再び仕事を見つける気力なく、貯金を崩し、25才にして狭い部屋にこもりネットばかりの毎日を送っていました。あとは食べて寝るの本能に従うしかなかった。来る日も来る日も来る日も。年月が経つにつれてますます追い詰められて。もう、人間っていうか、そもそもなんで生き物なんか存在するんだよ???って思っていました。

その後、確か自分の能力的なものを呪い、2chの生涯学習板のとあるスレ(多分能力開発についてだったような)を訪れました。そしたら「こんなのは?」とだけレスがしてあって、別スレへのリンクが貼られていて、クリックしたら、

「高校の数学物理などお手玉」「何日も悩み続けたクイズの答えを聞いた時の何百倍の衝撃」「人類にとっても最大の発見」...

ああ、ホラも行き着くところまでいくと清々しいというか...

それでも誠実なレスをやめない1氏。

「もしかしてこの人本気か?」

存在すらしたくないと思っている自分と、PCのモニタの向こうで「これは人類最大の発見だ!」と宣言している人。

もう笑けてきたのを憶えています。

そうして、この「原則」をめぐる世界に引き込まれていきました。こんなわくわくしたスレッドははじめてでした。その後 part2、part3 あたりまで読みました。いろんな考え、個性、役割。そしてその応酬やそこからくる意外な展開に、もう単なる掲示板に思えず、計算された物語のように感じました。この世の真実をめぐる物語。熱くなりました。

このスレの中でいろいろな考えに影響され、またこのスレから導かれた別スレなどの影響も受け、結局主旨である原則はわからなかったままながら、

「自分はいったいどうしたいのか」の指針をつくり、心の整理をつけることができました。

この先何があっても大丈夫なようにしました。

そしてその指針をもち行動開始! 開始! 開始! とある業界に再び仕事を得て過ごしてきました。

非力なくせに自分なりに忙しくなってきた原則スレを見ることも無くなって、それでも指針だけは残ってブレることなく生きてきました。

もっとも、スレには、物事の効率のよい進め方についてもたくさん触れられていたはずなのに、

それらについては、いっぱいいっぱい僕にとって何だか漠然としたものにしか映らなくて、もう忘れてしまっていたのです。

いつのまにか数年経って、

「もう別にいいんだけど、もっとうまくやってけたらなあ」と思ったとき、ふとあのスレッドを思い出しました。

久しぶりに哲学板スレッド一覧を見ると、もう part12 まで進んでいることを知りました。

スレでは、いつのまにかいなくなっていた1氏が復活していました。

しかも出版を決意、原稿を読む人を募っていると。

結局、あの「原則」ってなんだったんだろう。やっぱりわからないのかな。でも何が書かれているんだろう。

スレには一度も書き込んだことはないけれど、懐かしさも混じり、僕は1氏にメールしました。

今なお part 1 からの印象深い1氏に、自分がモニタ越しにメールを送るのが何だか不思議でしたが、

そして原稿を頂き、読みました。

<原則とは?>

本書を読んだ現時点では、まだ僕は原則を「発見」していません。

しかし、あると確信しています。

僕は、原則スレ Part13 の 55 でいう、確信している人なんでしょう。

この原稿を読んで、ますますそう思いました。

確信の根拠にあるのは、普通に存在する「水」です。

あんなに不思議なものはないと思います。



水は与えられる影響や環境によって、様々な対応をとる（流れたり、凍ったり、時には蒸発したり）、そんな柔軟さだけでなく、ほぼ全生物にとっての恩恵、源であることから、自然・世界がどういう傾向を求めているとか、ひいてはどういうものが好まれるとか、どんな物事が惹きつけられるのか、そんなことまで考えさせられました。そんなものを生み出しているものは、とんでもなくて当たり前だ！とも。

原則スレに出会い、そこで紹介された老子の言葉でますます考えました。

水は、与えられる影響、環境によって、柔軟に姿は変える。しかし水であることには変わりがない。（そしてここまでイメージして、原則スレ Part1 の 509 氏の「原則」は意志を持った水のような」といった趣旨の書き込みに共感が持てたのです。僕の方がずっとおぼろげだろうけど。）

これを、「原則」に当てはめてみる。

本書にある格言の中に物事の進め方がありました。

その文章だけを見れば、個別のマニュアルの羅列のようですが、

「それは「原則」が水のように形をするすると変えているだけで、「原則」には変わりがない」と。

だから、結局これらの個別の格言はすべて同じものを指しているんだな、と理解しました。

本書を読んで確信しました。それだったら、「原則」に沿えば確かにすごいだらうなと。

昔からそれがもつ性質の一面についてはよく考えていたことでしたが、

それまでは、あらゆる物事やそれを為す思考法にまで拡大できるとは気づきませんでした。

ならば結局、水や自然や世界（に潜む原則）が淡々で行うであろう営みを、

ヒトという生物が意図して実現するためには、脳をフル回転させる必要があると思いました。

本書を読むまで、こんな当たり前の事も僕は気づきませんでした。この当たり前の点がはつきりしたことも良かったです。

そりゃいくら「それは水のような風のようなものなのだ！」と決めてみても、その日から「最適な戦略」がパッと浮かぶわけがない。

真に、水のような風のような柔軟なる考え続ける態度を実現した（上に行動して経験する繰り返しの）その先に、浮かぶのでしょうか。

（だから「常識に囚われない」ことが大事なのだと思います）

そしてそういう性質こそが、僕が今このように「原則」をただ理解しただけでは発見も利用もできない、理由になっているのでしょう。

「そういうものなんだな、そういう性質のものだったら確かに今のところ何事にも矛盾しない、1 氏の言うことがしっくりくる」と、

いわば外側から理解した、外側から描いてみたもの、外側から構築したものなので、これを自分のものとして、自分と置き換えて操れるわけじゃない。

今、実際に実用として活用できるかというところじゃないのです。

自転車が走る「ワケ」「しくみ」をわかり、これなら『走れる！』と確信したものの、

実際はじめて自分がまたいでもすぐコケるだろうし、

あるいはガソリンに点火して爆発するのを理解し（実際見て）『これはなんか凄いエネルギーだぞ！何かに使える！』と興奮しても、

『このエネルギーで便利な乗り物が造れる』という発想は出てこない。

あるいは一歩進んで『このエネルギーで便利な乗り物が造れる』とわかって、いきなりは自動車を設計できないような感じです。

今の自分には、まだ「原則」を利用する技量が足りないようです。

しかし、本書の主旨として、

1. 「原則」というものがある。

2. 「原則」を発見し、あらゆる物事に適用するには、実際に自分で世間で試すことが一番

僕の場合は、これから 2 になるんだと思います。

<本書の意義>

まず僕個人として。

僕には指針がありますが

（指針というか、人生という暇つぶしに何して過ごそうか

それじゃどんな時でも、なるべく人に喜んでもらうようにしよう、なるべく苦痛を和らげるようにしよう、という程度）

その指針に、この原則の理解は強力な武器に成長してゆくだろうと思います。そしていつか原則をつかみたいとも思っています。

本書でパラダイム転換について紹介されていたことを参考にして、考えました。

原則を在ると仮定し、それを探る方向へ。別にこれまでの指針にも矛盾しないし、リスクも無い。  
完全に手に入らなくても、限界に向かい、あとは良くなるだけ。少しずつ建設（発展）されていくという性質のもの。減りはしない。  
また、これまでの指針である「暇つぶし」という観点から見ても、原則探しは、生涯通しての暇つぶしに足る「最上の遊び」となる。  
もし、原則が嘘でも本人は知らずに死ぬ（原則を探求して楽しく過ごして死んだ。ただ限界には達しなかったというだけ）、  
もし、原則が嘘であると、生きているうちにわかったなら、これまでの指針ひとつに戻るだけ。リスクは無い。  
（それでも、原則が広まった世界というのを、できれば生きているうちに見てみたい）

価値を最大化すべく、原則を探すべく、仕事も新鮮に感じます。

いろんな切り口が見え、サービス面や、お金の流れ、店舗維持という物質的な面。時間面では、何月何曜日何時頃が売上の要となるか、  
価格設定、どこに営業に行きどんな団体客を狙うか、いやそもそも市場の動向は？ いやそもそも職場の雰囲気は？  
自分の役割の中で、何をどれだけ優先したらいいのか、何が急ぎの仕事なのか、、、  
でも幸い、そういう事を考える職場というものは、原則を追うのにとっても恵まれているのだと思います。

しかし！

本書の意義として、僕がもっと伝えたいことがあります。

それは、もしもこの書を真剣に読むのなら、環境がどうか、肯定とか否定とか、理解するとかしないとか、役に立つ立たないとかはともかく！

いろいろな物事から何とか原則を捕まえようと、たくさん考えるようになるという事です。

考えるといろいろな事を思いつきます。自分のレベルで、ああそうか！っていうのが湧いてきます。

考えることが楽しいというより、ハマります！

考え続けるからポンポン湧いてきてメモするんですが、文字にするとマニュアルの羅列みたいになってインパクトが薄れてしまったりということも多いですが。

しかしこれはまさに、本書にもありましたように、本書という「新奇の対象」に対し、「覚醒」を繰り返している（遊び）行為です。

考えた末ぼんぼん出てきた産物が大した事あるなし以前に、この行為自体が全人類に悪い影響を及ぼすわけがない！！

本書を楽しもうと思えるなら、

主旨として世界に隠れているとされている原則を、もしも、なかなかつかめないとしても、

それは逆に言えば生涯通して遊び続けられるとも言えそうです。

人それぞれ、置かれた状況で誰もがができる、真実の探求です。

役割が違うから当然ですがこれまでの自己啓発書、Howto 本にはそんな探求心は掻き立てられない。

それらの本とは最低でもその点が違う。

理解はしても、原則そのものをつかめていない立場の僕からは、少なくともそう言うことが出来ます。

そして、

まえがき

「人生とは長いものである。

これから長い時間をかけて過ごしていく日々の中で、

身にとりまく環境の変化を不安に思ったり怯えたりするのではなく、

その変化を楽しみながら過ごしていける人が少しでも増えていくことを期待したいと私は思っている。

そのために本書が少しでも役に立ってくれることを願っている」

これから、どんなことがあっても、「そこから」自分が決めた目的に向かって進む。

到達するかどうかはともかく、人間らしく考えた、最善手を尽くす。ならばそこに不安や怯えを挟む余地はもともと必要なかった。

そんな意味合いとして、かつて自分なりの絶望を見た僕には、伝わってきました。

たとえこの先もずっとずっと厳しいとされる状況に置かれたとしても、怯えない、あきらめない！！

1 氏はじめ原則スレの皆さんへの数年越しながらの礼としての、

なのに、この稚拙で、まとめようにもまとまらなかった感想を読んで下さった皆さん、ありがとうございました！！

・匿名さん 男性

今のようなインターネットの時代でなければ、1さんのような方を知ることなかっただろうし、「原則」も知らなかったでしょう。

ましてや見ず知らずの私が、出版前の原稿を読ませて貰えるなんて、私にとってはまさに「IT革命」でした。

「原則」が存在するなら、次は「脳内革命」が起きるだろうと1さんは言っていますが、本当にそうなってももう不思議はないように思います。

そして、今の地球環境の危機を乗り越える為にも、人類は「原則」を知る必要があります。

いや、もしかしたら、それしか手段はないかも知れません。

「原則」を応用して、効率よく対処していかないと、間に合わないかもしれないと思うからです。

それに、自分さえ良ければ良いという考えでは、地球環境の悪化は救えないと思うからです。

2003年の8月ぐらいに、原則スレを初めて見たときは、凄いパズルを与えられたような気がしました。

物事を突き詰めれば、この世界の根本原理があるかもしれないと考えたことはありますが、

それは学者とか専門家に任せておくしか無いと思っていたので、こういう形ならその気になれば、

私にも「原則」が発見できるのかもしれないと思い、改めてこの世界の根本原理に興味を持ちました。

元々シンプルで核心を突いたものは好きですが、その究極とも言える物に思えました。

「原則」を知れば余計なことを考えなくて済みそうです。そして、今は大変と思えることでも、そう思わずに出来るように成ればと思いました。

実際に自分自身で「原則」を発見するまでは、半信半疑だと思いますが、素直に信じる事も成長するためには、大切だと思っています。

もし仮に「原則」なんて無かったとしたら、それは残念なことですが、それが答えということで受け止めるしかないと思いました。

とは言え、「原則」が分からず、過去ログを何度か読み返したり、老子の「道(tao)」を読んでみたり、仏教の悟りとか、

他に覚醒したと思われる人達の話に興味を持ちました。そんな中で、これは無我と関係あるのではないかと私なりに考えました。

普段私達は、自分を中心に相対的に物事を捉えていると思いますが、もし無我になることが出来れば、

自分中心ではなく、本当の意味で客観的に物事を捉えられるようになり、

絶対的な存在を感じる事が出来るようになるのではないだろうか、それが「原則」ではないかと思いました。

でもこの時点で、私には無我になることなんて無理だろうと思い、半分諦めてしまいました。

その後は、「原則」について大した考えの進展もなく年月が流れました。

それでも、私の考えで合ってるとは限らないので、今回の原稿モニターの募集を知って、思い切って応募してみました。

1さんからのメールでは、「原則」はもっと単純なものかもしれないということでした。

「原則」というのは、私が考えていたこととレイヤーが違うと言うか、無我は特に意識しなくて良いのかも知れません。

老子の「道(tao)」とも、完全に同じという分けではなさそうです。私は改めて「原則」を探索し直そうと思っています。

もしかしたら、やっと「原則」理解のスタートラインに立てたのかも知れません。

本書は、1さんが猛烈に書き上げた感じで、凄い内容になってると思います。

「原則」がすぐに理解出来なくても、色々役に立つことが書かれていると思います。

ブラックボックスを使った考え方とかも、確かに普段こういう考え方をするところもあるのですが、

こうして説明されて、より利用しやすくなりましたし、それが「原則」理解にも繋がるように思います。

個人的に1さんの「原則」の素晴らしいと思うところは、「原則」をツールとして応用しようとするところだと思っています。

これもまた私が「原則」に興味を持った理由の一つでした。

「原則」発見の経緯についてのところは、「原則」の幾何学的なイメージとか、

「原則」ってそういうものなのかと思わせる記述が、沢山ありました。

1さんが偶然「原則」を発見するのは、原則的な思考をする必要に迫られた結果だと思うのですが、

発見しようとして発見する場合も、「原則」というのは、思いがけず発見してしまうものかも知れません。

ところで、本書のなかで書かれていることで、私が気に入っている文章があります。

「自然が自然を認識しているというこの事実。この事実こそが、究極の不思議(少なくとも不思議のうちの一つ)なのではないのだろうか。」

というものです。このことをイメージすればする程、本当にそう思う分けですが、このことを言葉として書かれているのを初めて見たように思いました。

今回この本の原稿モニターに参加させて頂き、ありがとうございました。この本の出版により、今後より多くの人へ「原則」が広まって、住みやすい世の中になっていくことを願います。

---

・すでに結論部として紹介していた mi さんの感想です。

- ・ mi\_1.txt (原稿前半部を読んだ後に頂いたメール)
- ・ mi\_2.txt (mi\_1.txt に対する私からのメール)
- ・ 感想\_mi.txt (原稿後半部を読んだ後に頂いた感想)

mi というのは、仮名です

#####

mi\_1.txt

#####

俺的思考：

- ・ 仮説：著者の言う原則とは「オブジェクト型思考」なのではないか？  
(オブジェクト指向ではなく考え方という意味で思考)
  - ・ 参考資料：5分で分かるオブジェクト指向(<http://www.atmarkit.co.jp/im/carc/special/fiveoo/00.html>)
    - ・ このページで紹介されているオブジェクト指向関係の記事もかなり参考になる

なる

- ・ <http://www.atmarkit.co.jp/farc/rensai/column/world01/world01.html>
- ・ <http://www.atmarkit.co.jp/im/carc/serial/object01/object01.html>

~原則を用いた例~

- ・ ジントニック
  - ・ ジン
  - ・ ライムジュース
  - ・ トニックウォーター
  - ・ カットライム

(ジントニックの例を示す。この場合、「ジントニック」を構成している要素はこの4つである。

この4つが組み合わさることによって初めて「ジントニック」が完成する。

また、この場合では

各要素に「分量」が入るものとする。)

- ・ お酒
  - ・ カクテル
    - ・ ジントニック

(ここで、「ジントニック」というのは「カクテル」の要素であることが分かる。

また、「カクテル」は「お酒」の要素でもあるから、上の関係が成り立つ。

)

ちなみに・・・

- ・ お酒

- ・ジン
- ・カクテル
  - ・ジントニック
  - ・ジン

(上のように、ジンは上位要素にあるが下位要素にも関連するので、厳密な木構造では表しにくい。

実際の世界を表現しようと思うともっとぐちゃぐちゃな図になると思われる。)

・このように体系的に物事を捉えることこそが「原則」における考え方となるのではないか？

・そうすると「原則」に基づいて考え、実行することにより、物事を体系的に捉えることが出来ると言える

・この考えを用いることにより、世界をすべてオブジェクト同士の関連で表現できるのでは？

- ・世界は全てオブジェクトにより表現されている
- ・頂点となるオブジェクト、ルートオブジェクトは何？　これが恐らく万物における最大の謎
- ・それにしては何かスケールがでかすぎる言い方　これが余計分かりにくくしている

- ・例：世界が大きなオブジェクト木であるとする
  - ・「知る」ということは、その木の構造(一部分)を理解することにより表現可能
  - ・つまり、「原則に基づいた知識」はその大きなオブジェクト木の部分木であると言える

- ・「原則」の利用方法例
  - ・ある事象 A を行うために・・・
    - ・「A を達成するために何をすべきか考える」　A のサブクラス要素（構成要素）を探す
      - ・サブクラス要素を全て発見出来たら A が達成される、という前提があると仮定
      - ・「A はどのような働きがあるのか」　A のメソッドを探す
        - ・これを満たすメソッドを全て見つけることにより、A というオブジェクトを「完全」なものにする
    - ・「原則」の限界を探すこと　問題の解決を目指すこと
      - ・「問題を細分化」することにより、その問題を構成する要素を見つけ出す

- ・「原則を証明すること」= オブジェクトの考えを用いることの出来ない例を見つけ出すこと。これが無いなら成り立つ。
  - ・探す気が起きない^^;
  - ・筆者は無いて言ってるみたい

- ・正直分かりにくいwww
  - ・少し遠まわしな感じが否めないのですさらに難しく感じる印象

- ・アインシュタインの統一場理論を突き詰めること　ルートオブジェクトを見つけること
  - ・何かを統一することは、様々なオブジェクトの上位要素を求めることに等しい

## 著書の1章ラストからの引用

---

自然界には不思議なメカニズムが存在していたのだ。  
間もなく我々人類も、このメカニズムの中で生活していたことを自覚するだろう。  
そのメカニズムを我々の味方につけてしまうのだ。  
そうすることで、不安定な社会の中においても安心感と自信を持って、日々の生活を送れるようになる。

---

このことから、「原則」とは何かしらの考え方、メカニズムであると予想できる。

## 著書にあった老子の言葉の訳

---

「  
これが「道」だと説明できるような「道」は、ほんものの「道」ではない。  
これが「名」だと説明できるような「名」は、ほんものの「名」ではない。  
「道」、すなわち「無」こそ万物の根源であり、そこから「有」、すなわち天地が生まれ、万物が生まれた。  
万物の実相を見きわめるには、つねに無欲でなければならない。欲望にとらわれているなら、現象しか見ることができない。  
実相も現象も、さかのぼれば同じ根源、すなわち「道」から発しており、ただ「名」を異にしているにすぎない。  
「道」はあくまでも玄妙な存在であり、そこから宇宙の森羅万象が発するのである。  
」

---

ここの考え方を見ると、「無」というものをルートオブジェクトとして考えてみたら結構解説がしやすい。  
となると「道」はオブジェクトに表現された巨大な木構造であると言える。  
さらに「名」はそのオブジェクトにおける構成要素？

---

例えば同じ賢さの人間が二人いるとする。  
その人間が難しい物事に挑むとする。  
一人は難しいと言って、すぐにそれをあきらめてしまった。  
一人は難しい問題であることは分かっている、すぐに解くことはできないが、その難しい問題を小分けにして考える。  
一つずつその糸口を探していき、一步一步前進していく。  
そのようにしていくと、不思議と物事は一步一步だが進めるものなのである。

---

これがかなり良い例。  
ある問題を解決するために、その問題(オブジェクト)の構成要素を考えていって、  
最終的に問題オブジェクトそのもの、つまり答えを見つけ出す。

---

## 「原則」による限界

---

問題オブジェクトに対する構成要素が全て見つかった状態。  
この状態を「原則」による限界、と呼ぶのではないだろうか？

-----  
ソフトウェアの世界では、このような考え方をオブジェクト指向と言う。  
ウィンドウズというソフトウェアは想像に絶するほどのプログラムコードの量になるのだろうが、  
この考え方をういて、意外とあっさり管理されているのだろう。  
電子回路の世界では、集積回路という途方もなく広大な迷路となる回路があるが、  
これも同じような基本的な考えによって作られているのである。  
-----

書かれてるウwww

とりあえず、以上な感じの話を著者さんにしてみてもらえますか？  
全く違うとか、近いとか、返事送られてきたらまた教えてくださいね

#####

mi\_2.txt

#####

>俺的思考：  
>・仮説：著者の言う原則とは「オブジェクト型思考」なのではないか？

結論からすれば、イコールの関係ではないですね。  
後に改めて説明したいと思います。

ちなみに、分かりやすい説明でしたので、趣旨はすんなりと理解できました。  
このオブジェクト指向を、一般の物事にも適用できる可能性を見いだされた方は、私の周りでは初めてですね。

まあ、それを明言していないだけかもしれませんが。  
もっともこれ自体は、プログラムを知っている人間なら、特に驚くような内容ではないと思います。

- > ・お酒
- > ・カクテル
- > ・ジントニック
- > (ここで、「ジントニック」というのは「カクテル」の要素であることが分かる。
- > また、「カクテル」は「お酒」の要素でもあるから、上の関係が成り立つ。
- > )
- >
- > ちなみに・・・
- > ・お酒
- > ・ジン
- > ・カクテル
- > ・ジントニック
- > ・ジン
- > (上のように、ジンは上位要素にあるが下位要素にも関連するので、厳密な木

>構造では表しにくい。

> 実際の世界を表現しようと思うともっとぐちゃぐちゃな図になるとされる  
>。) )

ぐちゃぐちゃになるというのはもっともですね。

ですが、そのような関係を知っていれば、現実的には問題なく扱えるものと思います。

余談ですが、ジントニックの作り方の説明は面白く感じました。

オブジェクト指向を当てはめると面白いですね。

> ・このように体系的に物事を捉えることこそが「原則」における考え方となる  
>のではないか？

> ・そうすると「原則」に基づいて考え、実行することにより、物事を体系的  
>に捉えることが出来ると言える

あとで説明しますが、これは「原則」の一面性を利用した考えですね。

> ・この考えを用いることにより、世界をすべてオブジェクト同士の関連で表現  
>できるのでは？

>  
> ・世界は全てオブジェクトにより表現されている

> ・頂点となるオブジェクト、ルートオブジェクトは何？ これが恐らく万物に  
>おける最大の謎

> ・それにしても何かスケールがでかすぎる言い方 これ余計分りにくくし  
>ている

スケールの大きい言い方をするのは、

それを遥かに超える概念を「原則」は持っているからなんですね。

> ・「原則を証明すること」= オブジェクトの考えを用いることの出来ない例を  
>見つけ出すこと。これが無いなら成り立つ。

> ・探す気が起きない^^;  
> ・筆者は無いって言ってるみたい

>  
> ・正直分りにくいwww

> ・少し遠まわしな感じが否めないのもさらに難しく感じる印象

分りにくかったり、遠回しに聞こえるのは、

「原則」という、全く異なる概念を伝えようとしているからですね。

では「原則」と、指摘された「オブジェクト型思考」の関係を説明してみますが、そのまえに。

世の中に存在する、ありとあらゆる問題を解決しようとするとき、

「オブジェクト型思考」という考え方だけで十分か？と考えれば、その答えはNOだと思います。

しかしながら、私の言う「原則」を使えば、その答えにYESと答えることができます。

オブジェクト型思考というのは、分野を超えてその考え方を適用できると思います。

ですが、そのように分野を超えて使える考え方もあれば、



その分野に限ってしか使えない考え方（概念）もあると思います。

この、「分野を超えて使える考え方や概念や思考など、その全てを含んだ考え方」が、「原則」を用いた考え方になるわけです。  
「原則」とはそのような位置づけにあります。

つまり、この自然界にはオブジェクト的な性質があるという一面性はあるわけです。  
なので、オブジェクト型思考も効果的なのです。  
ですが、これは「原則」のほんの一面性にしか過ぎません。

要するに、「原則」を用いた考え方を手に入れようとするのは、  
この世の中にある、あらゆる分野に共通する全ての考え方を手に入れようすることに値します。  
これをオブジェクト型思考を使って表せば、

- ・「原則」を用いた思考
- 「・道」を用いた思考
  - ・オブジェクト指向を用いた思考
  - ・～な思考
  - ・～な思考
  - ・～な思考
  - ・～な考え方
  - ・
  - ・
  - ・
  - ・

というようになるのです。  
正確に言えば、「原則」は「道」とイコールではありません。

>・頂点となるオブジェクト、ルートオブジェクトは何？　これが恐らく万物における最大の謎

しいて言えば、その最大の謎に値するのが「原則」という概念です。

なお、原稿の前半部には、それらの考えをちりばめている内容のものとなっています。  
今回ご指摘された原稿の部分は、「オブジェクト型思考」に関する内容の部分だけであったということです。

例えて言えば、私が「東京都」の説明をしていたら、「新宿のこと？」と聞き返されたということになります。  
確かに新宿は東京都の一部ですが、東京都ではありません。

とりあえずは、以上のようにお答えしておきます。

よろしく申し上げます。

P.S  
まだ完成していませんが、原稿の後半部を読めば、「原則」の意味は理解できるかもしれません。

#####

感想\_mi.txt

#####

感想です。

(一応文章を読む前、そしてその後の話という流れにしています)

「人生最大の発見」とか「原則」とか、世の中にそんなものあるのか？

というのが初めの感想でした。

謎、そして1さんの謎を含みつつも核心に近づいていく書き方から、

私なりに「原則」を理解しようと思いました。むしろ「原則とはこうだ!」という

1さんの文章から「原則」というものを言葉で説明したい!という思いの方が強かったです。

そこから、一度1さんに質問をぶつけたところ、それは「原則」の一部分でしかない、

ということを伝えられ、また悩みました。正直答えだと思っていたものが、

まだ本質の一部分でしかないって相当に悩みますよ(笑)

その後考えた後(原稿の後半部分を読んだ後でしょうか)、私はある結論に至りました。

『「原則」とは「調和」である』というのが私の結論です。

また、以降で述べている「原則」は

この一言だけでは全く意味が分からないので、順を追って説明したいと思います。

私の大学での専門分野は情報学ですので、基本的にはその考えがベースになっています。

私は、「原則」が物事すべてを表現できるという点から、「原則」とは多次元のベクトル空間で

であると仮定しました。いわばただの入れものであるとします。

言わば「原則空間」とでも言いましょうか・・・

その中に全ての森羅万象が各次元の要素として入っています。

自然の各要素はそれぞれが多次元空間を持ち、それぞれが独立して動いているように見えますが、

実は大域的に見ると、「原則空間」の要素であるために「原則空間」に作用されるという点を

持ちます。

さて、これだけでは「原則」というものは表現できません。実際初めの段階でも、

「次元論」の話かな~?という仮定がありましたが、

結局初めの段階ではここまでしか発想できていなかったため、この考えを用いるに至りませんでした。

しかし、後半部分を読んでから、この全ての次元を「バランス」させる、

つまり「調和」させることによって「原則」という考えを満足できるのではないかと

という考えが巡りました。

この「原則空間」を見て、足りない次元群(何らかの要素)を補うように行動すること、

これが即ち「原則」に沿った行動なのではないでしょうか？

そして、全ての次元要素が一定値(例えば100と仮定します)になった状態、

それが「原則」的な世界=理想的な世界なのではないかと思います。

ただ、このある一定の値のバランスされた世界でもある種理想的なものになっていると

考えますが、各要素がさらに上、ひいては無限大の領域まで成長しようとするのが

真の意味での「原則」的に理想的な世界にすることなのだと考えます。

こういう意味で、資本主義は「競争」することで無限大を目指していたことから、

ある程度成功したのではないかと、「原則的には」考えられます。

また、小さなところでは、「逆上がり」で考えると、自分は体のどの部分をどう気をつければ

よいのか?という足りない部分を補っていくことで、「逆上がり」というある一定値における

結果を満足させていくことが出来ます。さらにこれが発展すれば「大車輪」とかに

なっていくのかもしれませんが（笑）

非常にシンプルな考えなのですが、私の中ではこれがある種「原則」的なものなのではないか、と思っています。いや、シンプルだからこそ「原則」なのでしょうが・・・

私の中では、この考えを「原則」とすると、当てはまる事例が数多くあります。そのことから、これが答えだ、という考えが私の中にあります。

- > もっとも、「原則」を100%理解するためには、
- > 「原則」を「原則」として理解する必要があると思います。
- >
- > 伝えられたその答えは、円周率で言えば3.14というところでしょうか。
- > 本当の答えは ですから。
- > は として理解するしかありません。
- > どんなに桁数を増やしても にはならないのです。

これを聞いて安心しました。

私の考えは間違っていなかったのですね。

あと1さんの考えを理解できたことを素直に喜んでいきます。

そして、私の中でどうかその「原則」を自分なりの言葉で表現したい！

と思い、このような形で表現した次第です。

3.14という表現、非常にうまいと思います。

しかしながら、私の考えはまさにそこにあります。

「原則」を理論的に（なってるかは謎ですが）説明したかったのです。

・・・あ、一応感覚的にも理解しているつもりです。ご安心下さい（笑）

「原則」を知ったことによる自身の変化は・・・

正直様々なことを「原則」に当てはめるようになりました。

これはある種の「意識改革」になっているのだと思っています。

そして、いわゆる「原則的」である考え方に対して、納得しているようになっています。

「原則」に従うことで、うまくいけばそれに従うのが最善、と思っていますからもちろんです。

また、過去の自分の行いを「原則」に当てはめて考えてみたりもしました。

これによって自分を改めて省みることも出来ました。

・・・まさか、ちょこっと読んでみたものがこんなに影響を与えるとは。

単純な考え方ですが、非常に今後の人生にとって重要なものになると考えています。

- > そういう意味では、やはり情報学的に表現されたその内容は、
- > 「原則」そのものではなく、「価値最大化の原理」を示したもの(その内容を展開したものと言える)。
- > そして、『「原則」とは「調和」である』というその方が、「原則」の説明により近いのだと思います。

確かに、情報学的表現は「価値最大化の原理」を基礎として展開しました。  
私自身も、「円状のヒモに水を・・・」のところでこのイメージが生まれています。

そこから「原則」本体にこじつけて(笑)「調和」というワードを用いました。  
基本的に私も同じ認識です。1さんと考えを共有できて嬉しいです。

- > ちなみに、miさんに頂いたその内容を、試しに数人の人に読んでみてもらいました。
- >
- > 私の場合は、やはり数理に携わっているので、その表現が染みいるように伝わってきたのですが、
- > どうやら数理になじみのない人には、我々と同じような感覚で理解することは不可能な様子です。

これは非常に光栄に思います。  
まさか1さん以外の他の方に読んで頂くとは思ってもみませんでした。

感想を見て、理解して頂いていることも確認致しました。  
拙い表現でしたが、他の方にも同様な認識が生まれるとやはり嬉しいものですね。

思いつき数理的な表現を用いているので、数理の苦手な方には難しかったと思います。

しかし、「原則」を理解するためには、ある程度の精神世界から  
隔離された無機質な世界(=私はそれを数理的、特にデジタルな世界としました)の上から  
見たほうが到達しやすいのではないかと私は思っています。

この点では、1さんの仰った通り、「今までの概念を捨てる」ようなことが当てはまるのではないかと考えています。

それだけ「原則」は、「原則的な」考えを持たない方にとっては画期的ですしね。

- > 原稿に掲載する際、20代後半 男性といった紹介をしたいのですが、どの程度までの情報を出しても良いでしょうか？
- > これで載せるというのをお願いします。

私の言葉を掲載するという事に本当に感謝いたします。  
20代後半、男性でも結構ですが、情報学的な表現もありましたので、現在の職業であるSE(駆け出しですが^^;)、  
(他の方がもしお名前等掲載されていたら)miというHNも使用頂いて構いません。

他の方がどのように紹介されているのかが不明ですので、上記の情報でアレンジをお願いします。

原則の追加分ですが、正直「まだ追加するの?」という考えから読み始めましたが、  
非常に分かりやすい文章になっていたと思います。

「原則」を理解出来た(と思っている)私としては、「原則」にあてはめながら終始読むことが  
出来ました。

今までの文章から、『原則』ってこういうことなのかな?」と思っている人には、  
この文章を読むことは、自分の考えに対する非常によい確認作業となるのではないのでしょうか。

これは蛇足にはなっていないと思っています。

P.S.

早く「原則」を他の人に説明したくて仕方ありません。

この辺り、1さんの目論見通り、いや「原則」の通りと言っておくべきでしょうね。(笑)

---

I氏

全体の価値がもっとも大きくなるよう、各要素のバランスを取ること、  
逆に言えばいきなり無限大に価値を大きくすることはできないという、「限界」ですね？

それらについては、自分としてはこんなイメージを持っています。

人材、資金、情報、時間などを使いすぎると、「価値」を最大化できない。だからこそ、これらのことを「条件」と呼ぶ。  
無限大の価値と、それらの条件との「バランス」をとるようにも思えます。

視野を大きくすればそれらの条件に、「業界内のバランス」「国々間のバランス」が加わるでしょうし、  
また時代が進めば、世界全体の価値はより大きくなるべきです。

(地球的、宇宙的規模になれば、人類が淘汰されるという、人類にとっては好ましくない事態の可能性も無くはないけど)

価値最大化については、原稿にあった、円状に結んだヒモに水を注ぐイメージが、自分にとってはしっくりきました。

一見、水という単なる物体の起こす単なる現象と、人間が「価値」という好ましいものを得る行動を比べてもしょうがないように見えるけれど。

「単なる」「価値」「好ましい」というのが思い込みで。

見方を変えれば、人間(おそらく他の生物も)だって、どうあがいても、より価値を大きくしようと「しか」行動できない(上手か下手かは別として)。

少なくともその点ではこの世の全てのものは、まったく同じものに支配されていると思いました。

人間は脳があるからそのぶん自由を感じる事が出来るというだけ、とも言えるんじゃないかと。

だから本来は、価値とか、無価値とか以前にそういうしくみになっているのでしょし、  
発展だって「何らかの物事が拡散している、増えている」というだけなのかもしれないけれど、  
人間が実生活を送る上で、価値最大化として、使えるんだと思いました。

---

30代男性

「

ありがとう。まず俺はどんな言葉よりもこの言葉を真っ先に書いときたいと思います。

俺を生んでくれた両親、ありがとう。

俺が苦しいときに支えてくれた家族、ありがとう。

ただ、存在しているというだけで、とてつもない安心感を与えてくれた兄弟、ありがとう。

顔も知らないのに、いつも笑いと、そして励ましをくれたネット上の友達、ありがとう。

著者の1さん、1さんが立てたスレッドに書き込んだ皆、ありがとう。

そして、誰よりも幸せになる為に頑張ってた俺自身、ありがとう。

俺は今、物凄く幸せです。

当たり前です。俺は色々な人達に支えられながら、

自分自身いつだって前向きに、幸せになるための努力をしてきたんですからね。

とりあえず、「ありがとう」という言葉を真っ先に書いときたいと思いました。

と、格好よく書き出してみたのも、「もし良かったら感想を本に載せます」

という1さんから頂いたメールを読んで、「最初の書き出しが肝心だな、こりゃあ」

と、あれこれ思惑を巡らせて、「ちょっと格好よく書き出そう」と、

ズる顔をしながら、こう書き出したのは事実なんです、  
本当に心の底から皆に、「ありがとう」という感謝の気持ちを持っていることもまた事実なんで、  
こういった感じで書き始めたいと思います。

俺が「原則スレ」に出会ったのは、今から6年くらい前のことです。

今、俺は31歳なので、24、25歳くらいの時です。

そのころの俺は家にひきこもってお酒ばかり呑んでる生活をしていました。

人生に絶望していましたね。下に書きますが、結局は自分自身で招いたことだったんですが。

俺は、覚せい剤を3年ほど、使用していました。

年齢でいうと20歳の時くらいから23歳の時くらいまでかな。

最後は気が狂って警察に自首をするという結末を迎えたわけなんです、

今、思うと、それすらも「良い経験をした」、「あの経験があったから今の俺がある」と、

ここまでポジティブに考えられるほどになりました。

生半可じゃないですよ。覚せい剤というのはそんな生ぬるいものではありません。

「地獄」ですよ。やっているときはそこそこ「天国」でも、やっていないときは「地獄」ですよ。

こればかりは、もう経験者にしかわからないので詳しくは書きませんが、

でもそんな俺でも、こんなに幸せになれる。

結局は本人しだいで誰でも幸せになれる。

そういった人生を生きて行く上での「気づき」(原則)に、俺は、ある日、ふと気づくことになったんです。

最初に、人生最大の発見スレ(通称「原則スレ」)を読んだときは、まったくもってちんぷんかんぷんでした。

ある種、「魔法の杖」みたいなイメージでした。

あるいは、よくあるテクニク的な自己啓発書のようなイメージでした。

只、俺思うんですけど、自己啓発書って別にそこまで悪くはないよね。

それで人生を良い方向にもっていった人だってきつといそうだしね。

とりあえず、話それましたが、俺は最初、「原則スレ」を読んでもまったく意味不明でした。

覚せい剤をやっていた後遺症で、辞めてからずっと鬱気味だったからか、

「ぜってえにそんなねえよ」と、むしろ逆に否定的だったかもしれない。

この時期くらいに、紹介されていた「7つの習慣」という本を読みました、全然意味不明でした。

ただ、後でわかることになるんですが、このときに、なにか心に残るような感触を手に入れていたのは間違いのない事実です。

そんなこんなで、「ああ、クスリやりにゃあ」という気持ちを持ちつつ、

ノラリクマリと1年くらい過ごすことになるんですが、

ある日、ふと、ネットをフラフラしてたら、「リフティング」というのに出会ったんです。

そのHPには、格好よく颯爽とサッカーボールを蹴っているHP主の動画がアップされていました。

「ああ、格好いいなあ。才能持ってる奴はやっぱ凄いね。彼の人生は楽しいんだろうな」

このときの俺は、完璧に才能だと思っていました。

彼の懸命な努力を知らずに、本気で(生まれ持った)才能だと思っていました。

ただ、幸い、俺は昔からサッカー好きだったので、ちょっとやってみようか、という気持ちが沸いてきたんです。

駄目で元々みたいな感じでね。出来なくて当たり前みたいな感覚です。

それでずっと毎日コツコツとやっていったら、少しずつ少しずつ上達していったんです。

そして、俺は、かなり凄いレベルまで極めました。

毎日、少しずつ、努力して、3年かけて、今では、日本で100本の指には余裕で入ると思います。

座って蹴ったりとか、寝転んで、足の裏で蹴ったりとか、色々な技を安定して出来ます。

自分にあってたんでしょうね。努力がめっちゃ楽しかったですからね。

今まで培ってきた知識、経験、思考が、俺の頭の中で繋がりはじめた時期だと思います。

「リフティングを上手くやる方法」というのは、いつだって、いつの時代でも存在してるんですよ。

俺が生まれる前から、俺が死んだ後でも、絶対的に存在してるんですよ。

それは記号で示せないかもしれないし、言葉でも上手く表現できないかもしれない。

でも「リフティングを上手くやる方法」というのはいつだって絶対的に存在してるんですよ。

そして、掴めた人が上手くリフティングできてるんだと。

何度も何度も試行錯誤を繰り返し、ひたむきに努力して、上手くリフティングできてるんだと  
(飲み込み、コツ{リフティングをする方法}を掴むのが早い人遅い人があるのも承知です)

俺は気づきました。この世界は、そういう風になっていると。

ならば、「幸せになる方法」というのも確実に存在してるだろうと。

なので、俺は、幸せになるために、また一からコツコツと頑張っていこうって思ったんです。

そして、俺は、色々勉強して、  
自分の周りの環境は、全て、自分の行動の結果であるという一つの結論に達しました。  
なんていうのかな。全て、自分の捉え方ひとつで世界はどうにでもなると思うんです。  
そういう風に世界はなってるんです（原則）。  
幸せになろうと思って、努力すれば幸せになれるんです。  
そういう風に世界はなってるとしたら、言いようがないんです。  
1さんの原稿には、そのあたりが上手く表現できていると思います。  
自分の「価値」を高めていく、という行動には、自分にとって良いことしか返ってこないんです。  
そして、自分の「価値」が高まるということは、他者にネガティブな影響を与えないと思うんです。  
そういう風に世界はなってるんです（原則）。と、俺は思います。  
俺は、今の段階では、「原則」の全てをつかめていません。  
確実に「ある」と確信はしていますが、それだけで今の俺は十分ですからね。  
確信するだけでも、幸せに、向かって進めていけますからね。  
自分を信じて、自分の気持ちに正直に生きていく。  
「原則」を探して、誠実に生きていく。  
自分が死ぬ間際に、「ああ、精一杯生きたな」そう思える生き方が出来れば万々歳だと思います。  
生き方は人それぞれだと思います。  
ただ、俺は、「ああ、精一杯生きたな」そう思える人生を生きたいと思います。  
「原則」を理解しようと、ひたむきに努力する人生、  
それは、上の、「精一杯生きたな」に値する人生だと思います。  
そういう風に世界はなってるんですから。  
「理」に適った努力は報われるんです。  
足早で、稚拙な文章を書きなぐりましたが、多めにみてくださいな。  
俺のこの文章が、誰かの役にたってもらえるなら、これ以上の幸せはないです。

」  
「

1さんの言ってるほとんど、俺、理解できたというか、「あたりまえのこと」だと思ったんです。  
俺が上手く成長できてるってことなんでしょうね。  
俺もゲームめっちゃ好きだし、スゲーうまく言いたいこと言えてると思いましたもん。  
俺はもう「ある」という確信的な状態で読んでるので、全てがあたりまえだな、って思いましたけど、  
これ（原稿）クリアな状態、まったくもって「原則」とか知らない人に読んでもらって、  
それで感想とか聞いてもらうのもいいんじゃないんですかね。生意気な感じですがそう思いました。  
俺みたいに、『「原則」ってあるんじゃないか？（俺は、もう確実ですが）』って思った人には、  
1さんのこの原稿読んで、素晴らしい効果ってというか、啓発ってというか、なんつうか、  
めっちゃますます理解できて（より自分の「原則」が固まって、ますます自信持ってより良い人生が生きれる）  
それによって社会もより良くなっていく気がして良いと思います。  
だから、1さんは「原稿」を書き上げる、という物凄いことをやってのけたとも思います。  
ただ、上で書いたように、まったくとっかかりも無い人が読んだらどう思うのかなって。  
それ、めっちゃきになるなあ。  
俺、一回、俺が生きてきて経験してきたモノすべて、を消して、この原稿読んでみたいと思いますもん。  
どう思うんだろう俺はw  
まあ、そこで何も感じなければ、それはそれで、まだまだ人生で経験が（勉強も）少ないということなんでしょうね。  
時間が経てば、わかるようになる日がくるみたいな。

とりあえず、「原稿」お疲れ様でした。それはもう、かなりの労力をつかったでしょうに。  
ただ、俺のリフティング同様、1さんにとってはその作業、工程が、「楽しく」もあつたんでしょうね。  
文章に、それが垣間見えましてし、やっつけ仕事感みたいなものは微塵も感じられませんでしたからね。

」

「

2003年の12月頃、2ちゃんねるのとあるスレッドを読んでいたら、そのスレッドに「原則」の話題がほんの数レスだけ持ち込まれていました。「なんだ？原則って」「原則……って何についての？」と興味を持った僕は、哲学板の「人生最大の発見」というスレッドを読みに行くことにしました。

そのスレッドを読みについてみると既にスレッドがいくつか続いていて、途中から読み始めてみたもののなんのことだか分からなかったので過去ログのPart1から読み直してみることにになりました。そうしてPart1を読み進めていったのですが、そこに書かれている「原則」という言葉が何を表しているのか全く理解することができず、興味があるのにさっぱり意味が分からないという状態に物凄くイライラしたのを覚えています。これが僕と原則スレとの出会いでした。

それからしばらく月日が流れた2004年のことなのですが、色々不甲斐無い自分・能力の足りていない自分が嫌になっていた僕は、自分を変える場所にしようと考えて進んだはずの大学も辞めてしまい、ひきこもって過ごす日々を送り始めます。上手くやっけていけない人生がつまらなくて、もう生きていたくないと毎日のように思っていました。この頃からだったのか、それとも原則スレに出会った直後から既にそうだったのか、どちらだったのかは思い出せませんが、「原則」とは一体何なのだろう？と、ふと思い出したりなどするたびに「原則」について考えるといったことが多くなっていきました。原則スレに出会って以来、「ここで言われていることがどういうことなのかが分かれば、僕は人生を上手くやっけていけるようになるのでは……？」という期待感が自分の中にあっただので、それを求めてのことだったと思います。そのようにして「原則」について考える日々が続くようになって以来、何度か過去ログを読み直してみたりはしたものの、やはり全く意味が分からなかったのでスレやホームページで紹介されていた本も読んでみることにしました。これが2005年の12月頃からのことになります。

まず「7つの習慣」を読んでみたのですが、こちらでも文中に出てくる「原則」の意味が全く分からず、原則スレ同様にイライラしながら読み進めた記憶があります。しかしこの本を読んだ以降は、「原則」が何のことだかは分からないながらも、それについて考えてみる際にはこの本に書かれていたことも一緒に考えるようになり、それによってそれまでほとんど意識することのなかったような考えをその後の自分の生活に取り入れていけたように思えます。

次に読んでみたのは「映像の原則」でした。映像表現に対する興味をそれまで特に持つことがなかったからというものもありますが、自分にとっては全く意識したことや考えたこともなかったことが書かれていて、結構面白く思いながら読み進めた記憶があります。その後、何かを作ったり行ったりするときなどには、自分なりにではありますが、そのように作ったり行ったりする理由になることを探したり考えたりしてみるようになりました。この本を読むことで「原則」という言葉で表されていることが本当に僅かながらではありますが分かるようになってきたように思っています。とは言え、この時点でも原則スレの過去ログを読めばやはり意味が分からずイライラする状態でした。それ以降もホームページで紹介されている本のうち、「人生を変える80対20の法則」「老子 無知無欲のすすめ」「マンガ老荘の思想」「アイデアのヒント」「ビジョナリー・カンパニー 2 - 飛躍の法則」「稲盛和夫の実学 - 経営と会計」「合気道修行 対すれば相和す」を読んでみたりしました。これらの本を読んではそこに書かれている事柄とスレで言われている「原則」との関連を考えてみたり、自分の生活の中での出来事と「原則」との関連を考えてみたり、また時々原則スレを読み返してみたり……そのような日々がそれ以降続きました。そうして過ごしているうちに「原則」ってというのはこういうことを言っているのかな？と部分部分で分かってきたような気がしてきていたのですけれども、原則スレを読み直してみるとやはり何のことを言っているのか意味が分からないという状態でした。ちなみに、ここまでの時点でひきこもり状態からは脱してアルバイトを何年か続けていたり、この先の人生はこのようにしていこうかなという考えも持ち始めていたりなどしており、以前は毎日のように頭をよぎっていた「生きていたくない」という思いは既に浮かばなくなっていました。なんだか凄そうな「原則」。それを分からないままでは嫌だ！という思いが原則スレに出会って以来自分の中にずっとあり、その思いと付き合い続けていたら、いつの間にか自分の心持も変わっていったようです。

そして2008年の後半、久しぶりに2ちゃんねるの原則スレをチェックしてみたら長いこと書き込みの無かった1さんが現れていて本を出版するとの書き込みがありました。それを知り「本が出るのか！楽しみにしておこう。」と思っていたところに、今度は、今書いているその原稿を読んで感想を聞かせてくれる人を募集しているという書き込みがありました。



「原則」とは一体何なのか？ということについて、原則スレの過去ログとホームページに挙げられている本ではそれまで以上に理解を大きく進めていくことが自分にとっては中々困難なことに思えてきていたところでもあったので、出版を待ちきれなかった僕は原稿の読者モニターに応募してみることにしました。

・原稿を読んで

原稿の試読はいくつかに分けられた原稿を順にメールで送ってもらって、それを読んで感想を返して、次を送ってもらって……という形でした。僕の場合は大体3ヶ月くらいかかって、感想とそれに対する1さんのお返事などのやり取りも混ぜてもらいつつ全編を読ませてもらいました。「原則」とは一体何なのか？ということをつかむための新たな情報が得られたことで、「これを読めばもしかしたら分かるかも！」と、とてもウキウキした気分で僕は原稿を読み進めていきました。

原稿を読み進めることで、「原則」とは一体何なのか？ということに対する自分の考えは、少しずつですが進んでいきました。しかし、「原則」が何であるのかはやはりよく分からず、考えの変化も本当に少しずつだったため、この調子では全部読んで「分かった！」と思えるようにはならないんじゃないかという気が始めていました。読み進めるにつれてウキウキしていた気分も次第になくなっていき、ついには分からないまま原稿を読み終えてしまったときには「ああ、1さんの新しい文章を読んでも分からなかったか……。僕が原則が何なのか分かるようになる日はまだ遠いのだな。」などと、かなりがっかりした気分になっていたりもしました。そのような感じで、最後まで読んだ感想をどう書こうかな？と考えているところに、1さんから原稿に若干の変更を行ったというメールが届いていました。変更ってどこだろう？と、添付されている原稿をもう一度読み進めながら、もう一度ゆっくり「原則」とは何なのだろうかと考えてみることにしました。

とは言ってもやっぱり分からないのです。そこで、「何故自分には分からないんだろう？」「何が分かっていないのんだろう？」と考え始めました。1さんとメールでやり取りをして得た感触。原稿を読んで得た感触。またそのときに書き込みがなされていた原則スレでのやり取りを読んで得た感触。これらなどから、「もしかしたら「原則」という概念については今自分が思い浮かべられるようなもので大体合っているんじゃないだろうか、そこは分かっているんじゃないだろうか？」という考えが浮かびました。それで、「もしそうだったとしたら何故自分は「原則」が分かったという気にならないんだろうか？」と考えてみると、「それは、この「原則」という概念が一体どのように凄いものなのかが分かっていないからなのではないか？」というように思えました。それならばと、「もしどうだったなら「原則」という概念が凄さを発揮するのだろうか？」と考えていくことになりました。またこれとは別に、原則スレのPart12の634でミキさんが「でも原則って全てのことに言及しようとしてるから、完全な「わかった」わないと思う…」と言っていたのが僕の中でどこかに引っかかっていて、「原則が分かった＝原則を発見して掌握した」だと思っていた僕は、「完全にものにしてはいないけれど分かる。不完全ながらも分かる。というのはどういうことなんだろう？」「もし「原則が分かった」が「原則を発見して掌握した」ということではないなら、原則が分かるとは一体何が分かることなんだろう？」と考えていくことにもなりました。そのようなことを考えていたら、「ああ、そうなのか！」と、僕の中ではスッキリと納得できる形に考えがまとまる時がきました。次のような感じです。

何か という物事があったとすると、 は色々な性質を持っているように見える。あんな性質も、こんな性質も、そんな性質も……。観点を換えればそれだけ についての様々な性質がみえてくる。そこで、 という物事に、その色々な性質など その全てををもたらしているとする「 の原則」というものをひとまず仮のものとして置いておく。そのような「 の原則」をまず置いておくことで、 を色々と眺めるときに、そこに見られる様々な性質などは全て「 の原則」がもたらしているというように考え、 の様々な性質はそれぞれ「 の原則」の一部だと捉えていく。そして、 という物事に触れ、その様々な性質（ひとまず仮のものとして考えた「 の原則」の一部）を理解して自分のものにしていくうちに、あるとき「 の原則」、つまり という物事のその全てををもたらしているものが、仮の存在ではなく実際に思い描けるようになってしまう。そういう状態が訪れるのではないか？ こういう状態になったときにようやく「 の原則」を「発見した」と言うことができ、その後十分に確認できてから「掌握した」と言うことができるようになるのではないか？

それで、1さんは「この世の」というか、考えられる最大範囲を対象とした「原則」を発見し掌握した。

そういうことなんじゃないだろうか？

1さんが「原則」が"ある"か"ない"か、"存在している"か"存在していない"か、と強調していたのは、

そういうもの（「原則」）を置いたうえで世の中を眺めてみて、実際にそうなっているかどうか、

世の中がそういうつくりになっているかどうか、という意味だったのではないか？

このような感じで、これが「原則」という概念の凄さなのではないだろうか？と、

自分はここが分かっていないのではと考えた点について、自らが納得できる形に考えをまとめることができました。

こう考えがまとまってからは、原稿や原則スレの過去ログにでてくる「原則」という単語が含まれた文章も、

今までのイライラがなんだったのかというくらいにスッキリと読むことができ、

どうということが書いてあるのかも意味が分かるようになりました。

#### ・現在

現在の僕は「原則」そのものについては分かっていないですし、もちろん「原則」そのものを捉えることもできていません。

では僕はどういう状態にあるのか？という点、

1さんがこの本や原則スレでもってどういうことを表現しようとしているのかが分かった状態なのだ自分ではそのように思っています。

自分が今感じている世界において「原則」がどういう位置付けにあるものかが分かり、

それによって「原則」の発見・掌握に向けて動いていけるという感触を得ることができています。

自分の身の回りのことも「原則」をまずそこに置いたうえで眺めることができるようになったという感じです。

ようやく理解することのできた「原則」という概念によって

自分がどのように変わっていくのかを観察するのが日々の楽しみになってきています。

これから先の自分が「原則」を発見することができるのかどうかということも楽しみにしていることのひとつです。

#### ・広める

自分が納得するまでの道のりのことを考えると、「原則」を広める難しさというのは、

概念自体は単純であってもその使いどころが各自の思考に対して用いるもので、

物の見方に関するものだからその有用性が伝え辛い、というところからくるのかなと思っています。

「原則」の説明を受けているほうも使い方を直接見せてもらうことは出来ませんし、

説明からその使い方を上手く想像できた人にしか納得することが出来ないのだなと思います。

想像についても、その人が必要なだけの材料を揃えていなければならないのだと思います。

また、広まるかどうかということについては、

「原則」が一体何なのかが全く意味が分からなかったときには、広まっていきそうだという風にはあまり思えていなくて、

広まっていくにしても原則スレのこれまでの様子を見る限りはものすごい時間がかかりそうだなと思っていました。

しかし、「原則」という言葉でどういうことが表されているのかが分かった現在では、

これまでの考えがガラリと変わって、結構な勢いで広まっていくのではないかなと思っています。

僕の場合は原則スレに出会ってからおよそ5年もかかってようやく今のような状態になりましたが、

僕の今の感覚からすれば、とりあえずこういう状態になるというのはそんなに難しいことではないように感じられています。

今書いているこの文章は本に載せてもらえるということなので、

僕がこれからの生活の中でやり取りする人の数よりも遥かに多くの人に接する機会を持ってくれそうだなと期待をしています。

そんな期待と共に、この文章が「原則が分からない！」という誰かの理解の助けになることがあればいいなと願いながら

「原則」が広まっていく成行きを眺めて楽しむことにしたいと思います。

それで僕は今実際にどのように利用しているのか？となるとなかなか書き辛いのですが、

流れを意識するのに利用しているとか、現象を整理するのに利用しているとか、そんな感じです。

あまり上手く表せていないかも知れませんがちょっと思いついたので例えを書いてみると、

日常生活を送っていて、「自分は大きなピク羅斯をやっているんだ~」みたいな意識を

持っているのも「原則」という概念を利用できているからなんだと思ったりします。

既にマス色々埋められている人だとか、歪みなく埋めてこれている人は「絵柄がある」

と言われただけでピーン！ときたりするのでしょうか。

（絵柄がある程度予測できた時を「原則」発見の瞬間とする）

僕はまだピーン！とはきていないものの「絵柄がある」ってことを理解した、みたいな感じです。

以上、僕みたいなそんな状態もあるんですよーという書き込みをしました。

」  
「

最近勉強していて、

「これでいいな、っていう想像上のモデルを自分の中に作っていく為の動作が勉強なんだな」なんて風に思っていたりしました。

規模はちっちゃいですが、ひらめきを起こさせるような動作、みたいな感じで。

全然分からないことが出てきても、絶望することはなくなりましたw

宇宙（と人類）の話も、銃・病原菌・鉄の方の話も、変化の起こり方やその流れはこうなんだと言っているように思えました。

それから最後に、「原則」とその広まり方を重ねているように思えました。

「原則」を発見した人の境地については僕には分からなかったので「ああそんなものなのか」と思えました。

」

---

後半部 第4章より

・なぜ「原則」を広めるのか？

なぜ「原則」を広めるのだろうか？

ここまで来れば、その理由は、もはや言わずもがなであろう。

これまでの重要な発見は全てそうであったが、どこかで発見された事実は必ず世界中を駆け巡る。

もちろん、誰かが発見したことがすでに世の中に広まっているが、

それを知らない人間が同じことを再発見してしまったという事例も大なり小なり山ほどあるのだろう。

また、発見された事実が広まらなかったため、その事実が後世に伝えられずに失われてしまった事例も数多くあったのだろう。

そしてそれは、この「原則」に関しても同じなのである。

私が「原則」を世の中に広めようとしなくても、

いずれは「原則」に気がついた誰かが、必ず世の中に広めることになるのだろう。

しかし、誰一人として世の中に広めようとしなかったら、永遠に「原則」は市民権を得られないことになる。

もしくは口コミで広がるかもしれないが、それには時間がかかりすぎてしまうだろう。

すでに私は6年も前に、「原則」についてはインターネットの世界に記しておいた。

しかし、それだけではなかなか世界には伝わっていかないのだ。

実は、今を生きている地球人には、あまり時間がないのである。

現状日々差し迫ってきている、この地球規模の危機を乗り越えられるか否かにある。

もちろんそれは地球環境問題のことである。

地球温暖化によるものを想定しただけでも、今のペースで悪化が進んでいけば、100年後にはお先真っ暗な地球が待っているであろう。

自分たちだけが欲望を満たしていれば良いと考える人間が多ければ多いほどに、その行く末は暗いだろう。

これは、次世代の人類が直面するであろう出来事なのである。

遠い未来人ではなく、今を生きる我々の子供の世代には、もうそれが現実のものとして実生活に大きな影響を与え始めるのだろう。

その影響をできる限りに小さくしたいとするならば、世界中の人々の意識が早急に変わっていかなければならないのである。

まずは、我々の地球を大切にしたいと考えることが大事なのである。

ここで、二つの書籍を紹介しておきたいと思う。

一つは本書の途中で紹介した「緑の世界史」であり、

そしてもう一つは「銃・病原菌・鉄 1万3000年にわたる人類史の謎」の著者による「文明崩壊 滅亡と存続の命運を分けるもの」である。

こちらは2005年に出版されていて、やはり上下巻から成る大作である。

実は、「緑の世界史」の著者の主張は、その題名からも推測できるように地球環境問題にある。

著者は、環境がどの程度人類の歴史を規定してきたのかを探ってきたのである。  
結論として、自然崩壊してきた古代文明というのは、  
往々にしてそこに生きる人間達が自分たちの環境を破壊してきた結果として起こっていたことであつたと主張されている。  
この趣旨は、当然ながら「文明崩壊」においても共通して主張されている。  
存続してきた文明は、現在においてまでその環境を維持し続けることができた文明だけであつたのである。  
「原則」的に言えば、環境を維持し続けていくことだけが、唯一その文明が栄え続けていられる道なのである。  
環境が維持できなくなれば、その時点で文明の崩壊が始まっていくのである。

ところで「緑の世界史」は、環境の観点からこれまでの人類史が集約されて書かれている。  
環境問題に興味のある人には大変興味深い内容になっているだろう。  
特にその中でも第一章である「イースター島の教訓」については、  
たった十ページほどに、著者が主張したいと内容を見事に表現できていると言える。  
イースター島は、巨大な石像であるモアイ像でよく知られている島である。  
太平洋の真ん中に、それは孤島として存在している。  
五世紀に初めてやってきた少数の人達がそこに住み着いて以来、16世紀半ばには七千人程までに人口が増えていった。  
かつては森林が広がり、人々は豊かな文明を築いていたのだが、  
巨大な石像を作っては運ぶのに大量の木材を使用するため、彼らは森林を次々に伐採していったのである。  
1600年ごろには、そのほとんどの森林は失われていたという。  
森林が消滅したことによって、その生活は劇的に変化し、急速にその文明は崩壊していったものと考えられている。  
森林がなくなったことから土壌浸食が起り、作物の収量は著しく減少した。  
また、木材を材料とするカヌーを作ることが出来なくなったことから、本格的な漁業を行うこともできなくなったのである。  
もはや、それまでのような豊かな文明を維持することは不可能であつた。  
1722年にヨーロッパ人が初めてこの島を訪れたとき、  
そこには終わりのない争いを続けていた三千人ほどの人々が、乏しい食糧を補うために、互いを食べ合っていたという話である。  
彼らはその後も衰退の一途をたどっていったのである。

何故この話が大きな教訓になるのかと言えば、  
この地球とイースター島では共通点があるからである。  
それは地球もイースター島も、そこで生きる人にとってみれば閉鎖的な社会であることである。  
「閉じた系として構成されている社会」と表現した方が分かりやすいだろうか。  
我々もイースター島民も、孤立している社会として外部との接触は不可能であり、その中で使える資源は有限であるということである。  
まさに宇宙船地球号といった言葉が、それを的確に表しているのだろう。  
そもそも、我々が何故この宇宙空間に生きていられるのかと言えば、  
地球は太陽という恒星の周りを適当な距離を保って公転していることから、地表付近の大気が適当な気温で保たれているということ。  
そして地球という惑星が、酸素を含む大気をその重力でもって宇宙空間に逃げないように引きつけてくれているからなのである。  
この宇宙に孤立している地球上で、仮に取り返しのつかない環境問題が起こったとしたら、  
人類は地球から逃れることができず、イースター島民と同様の末路をたどるしかないのである。  
これを回避しようとするならば、早い段階で循環型社会への移行を目指すことである。

ちなみに、これを「原則」の観点から見ると次のように言えるだろう。  
実は、人類がどう行動したとしても、「原則」は常に物事を調和させる方向へと変化を促していく。  
それは人類の力をもってしても太刀打ちできるようなものではない。  
もしも人類が地球の環境を破壊し続けて行くのなら、人類は環境の悪化によって劇的にその数が減ってしまうだろう。  
生き残った人達も、その劣悪な環境の中、不自由な思いをしながら過ごさなければならなくなるかもしれない。  
しかし、結果としてそこで生き残っている人類は、貧しい生活でありながらも循環型社会に生きることになる。  
これは、「原則」によって人類は強制的に循環型社会に移行されられたと言えるのである。  
仮に、早い段階で真剣にこの問題に取り組むことができたなら、  
結果的にたどり着ける社会は、最も人類にとって快適な循環型社会となるであろう。  
要するに、人類が環境問題の解決に全力を尽くそうが、そうでなかろうが、絶滅しない限りは必ず循環型社会に移行するのである。  
後は、どれだけ人類が早い対応ができるかによって、どれだけ豊かな文明社会を存続させることができるのか、ということである。  
「原則」の観点からしてみれば、人類が豊かになろうとも、滅亡しようとも関係はないのである。  
「原則」は刻一刻と淡々に時間を経過させていくだけなのだ。  
これを人類の観点から見れば、一刻も早い対応をしていくことが、最も将来的に快適な社会を築ける道になるということなのである。  
まさに人類の遠い将来の生活は、今を生きる人類の行動にかかっているのである。  
太陽や地球の寿命を考えても、それはまだ億単位の時間が残されている。  
それと比べてしまえば、文明社会が生まれてからたった一万年程度の人類が地球を再起不能の状態にさせてしまうのは避けてほしいものであ

る。

今後も末永く豊かに暮らしていくであろう人類の住む惑星で我々は暮らしている、そんな希望に満ちた世界観を持っていたいと私は思っている。

もっとも、実のところ「原則」は人類を豊かにさせようとする働きもするであろう。

おそらく「原則」を知った人類は、地球環境問題に対する的確な対応をし始めていくのではないかとされる。

結論として、地球環境のためにも、未来の人類のためにも、そして今を生きる人々がより充実した暮らしを手に入れるためにも、まずは一刻も早く「原則」を広く普及させていくことが人類の使命なのである。

いや、もしかしたら、それは日本人にとっての使命になるのかもしれない。

「原則」が世界に広まるためには、まずは国内で十分に浸透していかなければ難しいだろう。

日本で普及しないものが世界で普及するとは考えにくい。

技術立国として日本が発展してきたのも、もともと日本人の持っていた高い精神性がその背景にあったからであろう。

「原則」が初めに浸透していく国としては、もっとも環境が整っている国であるとも言える。

また、日本で普及するからこそ、世界からも注目を浴び始めていくという流れになるのが自然に思える。

今のところ、「原則」を提案したくらいでは、そう簡単に世界中に浸透していくようなものとは思えない。

もちろんそれが私の誤算なら嬉しいことであるが、

貧しい人達が求めているのは、まずは「原則」ではなく、衣食住を含んだ生活に最低限必要な環境なのだろう。

彼らを手助けしていくとともに、「原則」による精神を同時に伝えていければ良いのではないかとされる。

どちらにしても、まずは最低限度の生活がほぼ満たされているであろう日本から「原則」は受け入れられていくのだろう。

なお、「原則」は精神的な意味での満足感をも人々にもたらすことになっていく。

今後、日本国内において「原則」による成果が数多く報告されてくるのであれば、

それは必然的に世界へと広まっていくための足掛かりになっていくものと思われる。

私がこれを書いている今現在、すでにインターネット上にその情報を記してはいるが、

一人一人がアクセスしてこなければ、その存在を知ることができない状態にある。

本書が出版されれば、その状況は大きく変わっていくことだろう。

今後は段階を追って、「原則」の存在を世界中に伝えていくことができれば良いと思っている次第である。

全ての人類が「原則」を知ることになれば、

人類にとってその恩恵は、もはや語り尽くすことはできないであろう。